

H28 適切なネット利用対策 実践事例コンクール事例集



【大阪の子どもを守るネット対策事業（平成28年度文部科学省委託事業）実行委員会】

構成員：（座長）兵庫県立大学 准教授 竹内和雄

大阪府、大阪府教育庁、大阪府警察、総務省近畿総合通信局、大阪市教育委員会
堺市教育委員会、大阪府PTA協議会、大阪市PTA協議会、堺市PTA協議会
大阪府立高等学校PTA協議会、大阪市立高等学校PTA協議会、株式会社NTTドコモ
KDDI株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、グリー株式会社
株式会社ディー・エヌ・エー、大阪府消費生活センター、青少年育成大阪府民会議

事務局：大阪府 青少年・地域安全室 青少年課 TEL 06-6944-9150

ホームページアドレス <http://www.pref.osaka.lg.jp/koseishonen/nettaisaku/index.html>

平成28年12月

平成 28 年度適切なネット利用対策実践事例コンクール実施要項

1 趣旨

多機能なインターネット機器の急速な普及に伴い、青少年がインターネットを通じた犯罪、トラブル、いじめ等に巻き込まれる事例が後を絶たないことやスマホ依存の弊害が社会問題化するなか、平成 26 年度から青少年のネット・リテラシー向上に向けた取組を充実させる契機として OSAKA スマホサミットを開催している。

その取組を各学校や地域に普及・定着させるために、各学校等において青少年の適切なネット利用対策を実践している事例について募集し、優秀事例については「OSAKA スマホサミット 2016」の場で発表いただき、同様の取組の更なる普及・定着を目指す。

2 主催

大阪の子どもを守るネット対策事業実行委員会（H28 年度文部科学省委託事業）

3 募集対象事例

青少年が適切にインターネットを利用できるよう、ネット・リテラシー向上に向けて実践している取組（近年のものに限る）

4 応募資格

- ・大阪府内在住・通学の小学生、中学生、高校生、大学生、社会人を主体とする団体・グループ
- ・団体等の活動範囲が大阪府内であること

5 応募締切

平成 28 年 11 月 11 日（金）必着

6 応募方法等

取組内容の概要について、別添様式「適切なネット利用対策」実践事例（A4 用紙 2 枚。詳細は記載例参照）により、11 月 11 日（金）までに下記送付先へメールか郵送、逡送にて提出してください。

7 審査

- (1) 応募事例は、審査委員会により審査する。
- (2) 入賞事例は、団体名を公表する。また、構成員の氏名を公表する場合も有り得る。
- (3) 入賞事例は、年度内に「実践事例集」として大阪府青少年課がとりまとめ、当課ホームページへの掲載の他、府内全ての小中学校・高校・支援学校等に配付する。
- (4) 入賞事例数は、次のとおりとする。

優秀賞	5 事例
佳作	5 事例
計	10 事例

8 入賞事例の発表

入賞事例のうち、優秀賞の団体については、下記のとおり、「OSAKA スマホサミット 2016」において、1 団体約 5 分間で発表をしていただく。

9 その他

- (1) 入賞 10 事例の「実践事例集」への掲載は、原則、提出いただいた別紙 1 をそのまま使用する。
- (2) 審査結果については、応募団体に平成 28 年 11 月中に通知する。
また、入賞団体名（構成員の氏名を含む場合もあり得る）や事例については、府青少年課ホームページ等に掲載するとともに、報道機関等へ情報提供を行う。
- (3) 「OSAKA スマホサミット 2016」当日の発表の様子については、報道機関等へ情報提供を行うとともに、周知・啓発用の映像記録として活用させていただく。

H28「適切なネット利用対策実践事例コンクール」(各学校での取組み事例)一覧

	学校名	タイトル	取組み内容	成果	頁
優秀賞 (1位)	大阪市立 九条南 小学校	私達がコマーシャル DVD等で提案するス マホの有効な利用法	○発達段階に合わせ、児童向け講演会、保護者向け教育講座、 スマホ利用のルールを決める学習参観を実施 ○スマホやゲームの利用アンケートを児童(保健委員会)が作 成、実施 ○児童がアンケート結果を踏まえて議論⇒コマーシャル動画を 作成するため台本と小道具づくり⇒配役を決めて撮影、発表	児童に身近な話題であ り、意見交流が活発化。 また、視覚に訴える教材 を作成した事で、低学年 にも無理なく動きかける ことができた。	3
優秀賞 (2位)	羽衣学園 高等学校	高校生が伝えるネッ トのスマートな使い 方(出前授業)	○羽衣学園高校ICTカンファレンスチーム約30名が、「ネット を使うときに伝えたいこと」5点を軸にソーシャルメディアガ イドラインを作成 ○このガイドラインを活用して様々な地域(高石市、熊取市、 四条畷市、泉大津市)の小中学校に出向いて出前授業を実施。 また、保護者向けの講演会でも活動を報告	他地域の生徒との交流を 通じて、新たな「気づ き」があり、ネット問題 についてより深い思慮が 得られた。	5
優秀賞	大阪市立 董中学校	董中メディア宣言	○H28城東区PTAフェスタでネット利用の危険と家庭での ルール作りを呼びかける。 ○城東区6中学校生徒会交流会でアンケート結果の報告とネッ トの危険性について意見交換 ○生徒会新聞を発行、ネット委員会によるアンケート作成、 ネットトラブル啓発ポスター作成 ○董中メディア宣言と啓発CM(動画)を文化祭で発表	全校生徒に呼びかけるこ とにより、ネット問題に 対する意識が高まってき ているのを感じた。	7
優秀賞	交野市立 中学校 生徒会	交野市四中学校交流 会「ケータイ・スマ ホ・インターネット の利用と啓発につ いて考える」	交野市内の全中学校(4校)で実施したアンケート結果を踏ま えて、各校生徒会で今後考えられる課題に対して、生徒会交流 会で意見交換のうえ、4つのグループに分かれて啓発用動画を 作成。今後、各校で活用する。	生徒会執行部が主体と なって取組を進める中 で、生徒間の交流が深ま り、その他の活動も活発 になった。	9
優秀賞	摂津市立 第三中学校	摂津三中生徒会によ る校区スマホ・ネッ ト利用の啓発活動	○生徒会がスマホアンケートを実施し、集計・分析を通じて問 題点や対応策を議論し、啓発動画を5本作成。 ○文化鑑賞会でアンケート結果の報告と啓発動画を発表 ○動画を教材として、校区小学校6年生への出前授業や地域イ ベント「三中フェスタ」で発表	生徒会が自分達でアン ケート集計・分析する事 で、他人事ではなく自分 事としてネット問題を捉 えるなど自主的な姿勢が 見られた。	11
佳作	大阪市立 堀江中学校	校区小学校への出前 授業 「SNSが将来に与 える影響」	○外部講師を招いての情報モラル教室や全校生徒と小6へのア ンケートを実施 ○生徒会が主体となってアンケート結果を分析し、問題点や対 応策について議論 ○文化発表会で情報モラルに関する寸劇を発表 ○その映像で啓発動画を作成し、校区の小学校へ出前授業を実 施	出前授業後の小学生の感 想には「書き込みが消せ ないことを初めて知っ た」など、意識の向上が 見られた。	13
佳作	高石市立 高石中学校	ダラダラやり取りこ れで終了! みんなで考えよう 「高中スマホルー ル」	○「SNSのやり取り」と「生活への影響」に着目し、生徒会 メンバーを中心にアンケートを2種類実施 ○文化活動発表会にて、アンケート結果からわかる高石中学校 の実態を発表 ○SNSのやりとり終了の合図「じゃい」を「高中ルール」とし て全校生徒で決定し、本校のみならず、保護者や市内小中学校 へも広めていく	2種類のアンケートを実 施したことで、より細か にスマホと生活の実態を 把握でき、生徒会が臨場 感のあるプレゼンが出来 た。	15
佳作	府立野崎 高等学校	スマホマナー啓発 ムービー	○スマホへの依存傾向やコミュニケーション能力不足からくる 身近なトラブルについて、生徒会が主体的に考え、全校生徒に 発信 ○スマホ安全利用啓発ポスターを作成⇒校内に展示 ○生徒会がアンケート結果を踏まえた議論をまとめ、啓発動画 を自作自演で作成⇒動画を上映し、スマホの適切な利用につ いて訴求	生徒目線で作成した動画 が多く生徒から共感を 得、スマホ利用に関する 話題が多くなり、生徒が 中心となって考えてい く土台作りも校内で出来 てきた。	17

団体名	大阪市立九条南小学校		
タイトル	私達がコマーシャル DVD 等で提案するスマホの有効な利用法		
担当者	小幡 富士子	連絡先	06 - 6582 - 0930

1. 取組の趣旨・目的

昨年度5・6年生が「道徳から情報モラル教育へ」というテーマでスマホに関する取組を実践し、その成果と課題を考察。その結果、自宅で4時間以上スマホを使用している児童が高学年で約10%もいることやLINEを活用している児童が予想以上に多いことが分かった。

しかし、自身や家族のスマホにフィルタリングをしている児童は約5%にとどまり、スマホに関する危機管理意識についてはかなり低い。将来就きたい職業に「ユーチューバー」をあげる児童が多いが、画像のアップについてのルールやリスクについての知識を持っている児童も少ない。

保護者からも児童のスマホの活用についての悩みが寄せられることも多く、継続した取組の必要性を感じることから今年度も取組を実施することとし、新たに健康委員会がスマホと健康についての相関性を探るため、「全学年にスマホやインターネットゲームの利用状況についてアンケート調査」を行い、分析し、注意点を全校に伝えていく(1年生は保護者とともに調査に回答)。

高学年では、発達段階に合わせ、全校にスマホの活用法や情報モラル教育の大切さを発信する取組を行う。その報告を受け、低学年や保護者からの感想も集計し考察する。友達の悪口や不適切な動画をSNSやネット上に投稿することで思わぬトラブルが発生するケースの事例を知り、スマホやインターネットの使い方を改めて見直し、適切な使い方を全校児童で共有できると考えている。健康でネットトラブルのない生活を過ごすことができることを目的とする。全市向けの国語科の公開授業の取組にも組み入れ、スマホという児童にとって身近な題材を生かし、伝え合う力も育む。

また、家庭の協力が欠かせないため、地域・保護者向けの講演会を行い啓発に努める。

2. 取組内容

4月：スマホやインターネットゲームの活用状況などについてのアンケートを作成(保健委員会)

5月：全校児童対象にアンケートを実施(高学年用・低学年用を作成。1年生は保護者と共に回答)

6月・「ちょっと待って ケータイ・スマホ」竹内 和雄准教授を招聘し全校児童向け講演会

- ・「スマホ時代の大人が知っておきたいこと」保護者向け成人教育講座

- ・地域・保護者の講演後のアンケート結果からスマホへの意識についての分析と考察

- ・スマホ利用のメリットとデメリットを話し合い、ルールを決める学習参観を実施(5年生)

7月：スマホの問題点や啓発方法等について考え、コマーシャル動画の作成を決定⇒台本作成と小道具づくり(4年)⇒8月：配役を決めて、水泳指導後に撮影会(4年)

11月・スマホ利用のメリットとデメリットについての話し合い。全市向けの公開授業実施。

- ・「道徳から情報モラル教育へ」の取り組み(5年生・4年生)

- ・スマホについての啓発ポスターを作成予定⇒全校や地域にも掲示し、地域・保護者も含めて適切なスマホ利用について考える機会を提供。コマーシャル動画公開(4年)



<予定>

12月：OSAKA スマホサミットに参加した感想や学習したことを全校朝会で紹介

1月：「道徳から情報モラル教育へ」の実践を通し、スマホ・インターネットの有効な活用方法やインターネットの落とし穴について討議し、低学年を中心に発信する。(6年生)

2月：保健委員会から考察の報告

3. アピールポイント

- ・教職員主導で取り組みを推進するのではなく、児童の自発的な発想を大切に、児童の意見や考え、危惧していることを全校で共有できるような取り組みにする。児童が実際に遭遇した身近なトラブルも題材に取り上げ、児童の思いを尊重するよう留意している。
- ・保健委員会が主導で活動するが、高学年の児童が発達段階に合わせて、取り組みを展開し、全校児童に多様な機会、多様な内容でアピールすることで学校全体の意識の高まりが望める。

4. 成果

- ・児童間の意見の交流が活発に行われ、スマホのメリット・デメリットを意識する児童が増えた。スマホに関する知識が深まり、トラブルに発展しないために気をつける事や犯罪に巻き込まれないための危機意識や具体的な方法を知ることができた。
- ・児童にとって生活に密接している内容なので、普段自主的に話すことが少ない児童も積極的に活動に参加し、伝え合う力の育成につながった。
- ・ネットトラブルが大きな問題になる前に、保護者や教職員に相談しようとする児童が増えた。
- ・健康との相関性についての発表を通し、生活リズムの改善も望まれる。
- ・コマーシャル等視覚に訴える教材を開発した事で、低学年にも無理なく働きかけることができた。



5. 課題と今後の取組について

- ・スマホやネットは、児童の暮らしに密接に関わっており、日々進化しているので、取り組みを継続するとともに、内容の改善を行っていくことが重要である。
- ・低学年の児童のケイタイ・スマホ所持率(保護者所持のスマホを自由に使用可)も上がっているので、低学年からの取組について研究を行う。
- ・児童の方が専門知識を有しており、教職員や保護者が遅れている状態であることが課題と捉えている。教職員の研修会や情報共有、保護者・地域との情報交換の場も充実させていく必要がある。
- ・ネットリテラシーについての知識を高める取組みを継続的に実践・発信をしていく。

「適切なネット利用対策」実践事例

団体名	羽衣学園高校 ICT カンファレンスメンバー		
タイトル	高校生が伝えるネットのスマートな使い方（出前授業）		
担当者	米田 謙三	連絡先	072-265-7561

1. 取組の趣旨・目的

今後、さらに高度情報通信ネットワーク社会が進展していく中で、子どもたちは様々な端末を活用し、情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を身に付けることが重要となっています。しかし一方で、「情報モラル」の欠如により、権利侵害・犯罪の助長・健全な青少年育成の阻害等、新たな社会問題に繋がっていることも事実です。「情報活用能力」と「情報モラル」を両論から学ぶための一つとして、リアル出前講座（講義型またはファシリテート型）を高校生自身が実施し、保護者や小中学生とインターネットの利活用について主体的に議論を交わすことによって高校生自身もさらに自ら考えて使用・行動出来るようになることを目的としています。

2. 取組内容

羽衣学園高校生 ICT カンファレンスメンバーは、『ネットを使うときに伝えたいこと』を次の5点が大切であると考え、講義やワークショップで伝えることにしました。メンバーは、1年生から3年生まで30名、ボランティア部でモラル啓発活動を6年ほど実施していましたが、正式に高校生 ICT カンファレンスメンバーという形で卒業生にも協力いただきながら活動しています。

『ネットを使うときに伝えたいこと』

1. 「ネットの仕組みと怖さ」 ネットは世界中につながっていて、一度発信すればそれは世界に発信するのと同じで、便利だけれどもその反面、危険な事もたくさんあるということ。
2. 「個人情報の大切さ」 個人情報は氏名、年齢、生年月日等であるが、身長や体重まで個人情報に含まれているということを知らない小中学生・大人も多い。
3. 「思いやり」 ネットを使う上で、相手の顔が見えない分、より思いやりの気持ちを大切に接しなければならぬということ。ルールを自分で決めてそれを守るのも思いやりのひとつ。
4. 「依存」 依存していることに気づくことも大切であるということ。
5. 「フィルタリング」 実際にフィルタリングを使っていない子ども達に聞くと、コミュニケーションアプリが使えなくなるのが嫌だからかけないとのこと。フィルタリングは、段階的にかけることが出来て、個別のアプリは使えるが有害なサイトはブロックしてくれる。そのあたりを大人にも理解して欲しい。

12月 高校生 ICT カンファレンスの提言をまとめ、内閣府の部会で発表

⇒3月の文部科学省フォーラムでも発表

3月 熊取市内中学校生徒対象、PTA・教員対象 出前講座

3月 四条畷市教育委員会対象 出前講座

6月 「教育エキスポ」東京会場&大阪会場で事例発表

8月 泉大津市サミット(小中学生)にて羽衣高校生が
ファシリテーターを務める。





3. アピールポイント

ソーシャルメディアの利用は、教員よりも生徒側が先行する機会が多いだけに、高校生が主体となってソーシャルメディアガイドラインを作成しました。そのガイドラインをもとに実際に地元の中学生へのワークショップや出前授業を実施して内容を広めていき、受講生には大変好評で、生徒向けに実施した内容をPTA向けに実施要請をいただいた地域もあります。

4. 成果

高校生 ICT カンファレンスは、現代のネット社会について私たち高校生が議論を重ね、より良いネット社会を築くための提案をする活動です。企業とも連携させていただきアプリの開発、メディアカルタなども一緒に企画して商品化などさせていただき、マスコミにも取り上げていただきました。私達はこれらの活動を通じて、インターネットトラブルを避けるための最良な方法は、利用者である私たちが、ネット社会を理解するという事が大切だということがわかりました。

ネットトラブルは日常から危機感を持っていないから生じてくる問題です。問題を解決するために、「誰に」「何を」「どのように伝えるか」ということが大切で、高校生である私達が意見を出し合い、学び合うことが、これからのネット社会を作るうえで大切なことだと思いました。先輩が作成したソーシャルメディアガイドラインを使って小中高生に出前講義できるようプレゼンテーションファイルや動画ファイルを作りました。既に高いリテラシーを獲得している生徒もいる一方で未だスマホを所持していない生徒も共に議論に参加することにより、それぞれの立場から共通の問題点や課題、将来性を検討したことで双方の生徒が新しい気づきを得、今後この問題についてより深い思慮が得られるきっかけとなったと考えます。

小中学生は本当に熱心に私達の話聞いてくれ、ディスカッションではたくさん意見を出してくれました。PTAなど大人の皆さんも知らない世界ですが色々質問もしていただきました。本当にやりがいも感じることができました。

5. 課題と今後の取組について

インターネットが快適になっていく裏でトラブルの数も増えていきます。私達利用者は、インターネットを使う際の危険性についても必ず考えなければなりません。そのことをしっかり理解し、常に危機感を持っていれば、私達はインターネットをより安全に、より快適に利用することができます。今後も色々なところでワークショップや講義をして行きたいと思います。また高校生 ICT カンファレンスなど高校生同士の意見交換ができるイベントに参加して他校の高校生や行政、事業者、保護者、教員の方々との意見交換をしてさらに新しい問題点や解決方法を探っていきたいと考えています。今年は特にフィルタリングに焦点をあて、企業と勉強会を開催したり、高校生が考える対策などを伝え、フィルタリング加入率を増やそうという計画をたてています。

「適切なネット利用対策」実践事例

団体名	大阪市立董中学校 生徒会執行部およびネット委員会		
タイトル	董中メディア宣言		
担当者	有賀仁美 森田泰行	連絡先	06-6931-0237

1. 取組みの趣旨・目的

昨年度から、ネットトラブルのない学校生活を過ごすことを目的として、生徒会執行部を中心に取り組んできた。学校全体として意識が高まってきていることを受け、さらに内容を深めるため、より多くの生徒の意識を高め、学校内だけでなく、地域や城東区の他の中学校にも広げようと活動した。

2. 取組内容

- H27 中学生全員と校下3小学校の6年生にアンケートを実施
- H28 1月 新入生にアンケート結果の報告とネット利用の危険について呼びかける
- 2月 城東区PTAフェスタで地域の方にネット利用の危険について呼びかける
新入生保護者説明会で、アンケート結果の報告とネット利用の危険について呼びかけ、家庭でのルール作りを求める
- 3月 城東区生徒会交流会で他の5中学校の生徒会役員に
アンケート結果の報告とネット利用の危険について呼びかけ、意見交換

1月 新入生に



2月 PTA・地域に



3月 他中に



5月 生徒会新聞発行

- ネット利用で困っていることを書いてもらうアンケート
- 董中メディア宣言を募集
- ネット委員会を立ち上げる案内とその募集

7月 第1回ネット委員会開催

- 全校生徒に行うためのアンケート作成
- ネットトラブルにあわないよう呼びかけるポスター作成

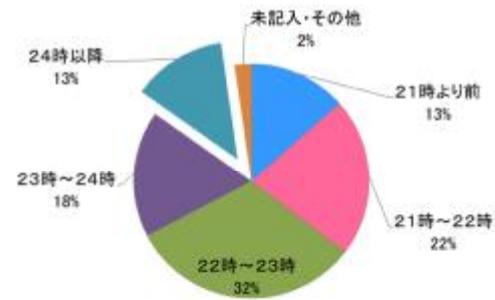
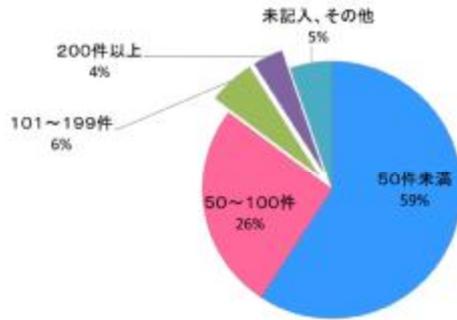
9月 全校生徒にアンケートを実施し結果分析

- 第2回ネット委員会でメディア宣言をまとめる



<1日にメールや通知が何件来ますか>

<夜何時までスマホをさわっていますか>



10月 董中メディア宣言と啓発CM（動画）を文化祭で発表

- ①スマホより 大事なものが なくなっていく
- ②9時以降 別にいいかも スマホなくても
- ③既読無視をただけで友だち関係が崩れるなら それだけの関係

3. アピールポイント

- ・生徒たちだけでなく、小学生や保護者、地域の方々にも、アンケート結果の報告および安全な使い方やルール作りについて発表したこと
- ・一部の生徒だけでなく、ネット委員会を募集して、幅広く意見を聞きながら活動したこと
- ・安全なネット利用を啓発するCM（動画）を作ったこと

4. 成果

- ・生徒会新聞の困っていることアンケートに対して、200以上の意見が集まった。全校生徒の問題に対する意識が高まってきているのを感じることができた。
- ・ネット委員会を募集したところ、各学年20人以上、全校で70人もの生徒が集まって意見を交換することができた。また、生徒会執行部と協力し、アンケートを作ったり、ネット利用の危険や安全な使い方に関するポスターを作成し、校内に掲示することができた。

5. 課題と今後の取組について

3月の城東区生徒会交流会をふまえて、8月には各校で取り組んだ活動を報告し合ったり、意見交換をしたが、アンケートの結果を区全体でまとめたり、6中学校共通の城東区メディア宣言（仮）のような形にまでつなげることはできなかった。10月の段階ではそこまで活動を広げることができなかったが、今後、引き続き各中学校へ呼びかけていきたい。

団体名	交野市立中学校生徒会執行部		
タイトル	交野市四中学校交流会 ～ケータイ・スマホ・インターネットの利用と啓発について考える～		
担当者	灰藤 真之(第一中)	連絡先	072-891-1237(第一中)

1. 取組の趣旨・目的

ケータイ・スマホ・インターネットの実情、実態について、交野市内の全中学校（4校）で実施したインターネットアンケート集計を活用し、意見交換をおこなう。その上で、今後考えられる課題に対して討議し、啓発用動画を作成して各校で活用する。

2. 取組内容

○1学期 ケータイ・スマホ・インターネットの実情、実態についてアンケート実施

○7/20(水) 1学期終業式後

会長・副会長が集まり、8/26の交流会に向けての準備(役割分担)

○8/26(金) 2学期(午前中授業) 交野市立中学校生徒会執行部交流会 2016

テーマ「交野市内中学校生徒のケータイ、スマホ、インターネットについての実情、実態」

■第一部

- ・アイスブレイク
- ・自己紹介
- ・グループに分かれてアンケート結果の分析
- ・グループ発表

■第二部

- ・啓発動画作成
- ・動画発表
- ・交流会の振り返り、感想のまとめ

第一部 (アンケートから読み取れる課題を分析します)



第一部は、4つの中学校の生徒会混合のグループをつくり、その中で、アンケート結果の分析や各グループどんな啓発動画をつくるか内容の検討です。アンケートから見える課題や動画の内容をグループごとに発表し、その後は、いよいよビデオ撮影です。

第二部（いよいよ啓発ビデオづくり開始です）



4つのグループ、それぞれ工夫を凝らしました。今話題のゲームについての注意、家計への負担、トラブルに巻き込まれないための心得、そして健康面への影響など、短時間で案を練ったとは思えない内容のビデオができあがりました。

3. アピールポイント

- ・生徒会執行部が主体となり、身近な課題であるケータイ・スマホを含むインターネットに関するアンケートを実施し、それをもとに啓発動画の撮影という改善策を考えた。
- ・生徒が動画の内容を考え、出演した。
- ・生徒が主体となり、ケータイ・スマホ・インターネットの危険性や問題点を考え、討議した。

4. 成果

- ・生徒間の交流が深まり、その他の活動も活発になった。
- ・各中学校で集会等の時間を使い、啓発動画を流し、ケータイ・スマホ・インターネットの使い方について考えさせるきっかけになった。

5. 課題と今後の取組について

ケータイ・スマホ・インターネットはほとんどの生徒が身近なものとして扱うものである。便利である反面、いじめや不適切な動画の掲載、課金トラブル、不適切な出会い等問題も多い。ケータイ・スマホ所持の低年齢化から、情報モラル教育や問題に巻き込まれないための啓発を小学生のうちからしていく必要がある。今後は、啓発ビデオを小学生に見てもらったり小学校の児童会と連携した取組をしていくとより効果的な取組になると思われる。

また、各中学校にて啓発活動をより活発にさせ、全校生徒に向けて発信していくより効果的な取り組みが必要になると思われる。

団体名	摂津市立第三中学校		
タイトル	摂津三中生徒会による校区スマホ・ネット利用の啓発活動		
担当者	宣 昌大	連絡先	072-633-0007

1. 取組の趣旨・目的

一昨年度より本校生徒（第三中学校1～3年生）を対象にスマホ・ネット利用調査アンケートを実施。昨年度を経て、今年度は本校生徒だけでなく校区小学校（三宅柳田小学校、千里丘小学校）4～6生にも拡大して調査を実施し、児童生徒のスマホ、ネット利用の現状を明かにした。その分析の結果、児童生徒のネット接続機器の所持率や3時間以上の利用者とその依存度の高さ、身体的な影響、課金に対する意識の変化などがわかった。

生徒会ではこの結果を重く受け止め、自分たちでこの現状を本校生徒や教職員、校区小学校の児童、地域へ伝えるべく啓発活動を企画し、昨年度に引き続き継続的に実施した。

2. 取組内容

6月：摂津市立第三中学校1～3年生、校区小学校（三宅柳田小学校、千里丘小学校4～6年生）より、スマホ・ネット利用アンケート調査を実施。

8月：アンケート調査を集計、分析。生徒会で話し合い問題点を明らかにし、その対応策について話し合う。また、本校生徒や教職員、校区小学校、地域への発信方法についても考えた。

9月：本校の文化鑑賞会（16日）にて、生徒会よりスマホ・ネット利用調査の報告を行い、本校生徒及び教職員への啓発を実施。

文化鑑賞会にて全校生徒、
教職員へ向けて発表



10月：小学校出前授業。校区小学校（摂津市立三宅柳田小学校）の6年生約90名を対象にスマホ・ネット利用調査の報告と啓発活動を実施。

左：小学6年生へ出前授業
右：授業後に何を学び、何が
わかったかをアンケート調査



11月：校区の地域イベント“三中フェスタ”にて、生徒会よりスマホ・ネット利用調査の報告を行い、地域の方々への啓発を実施予定。

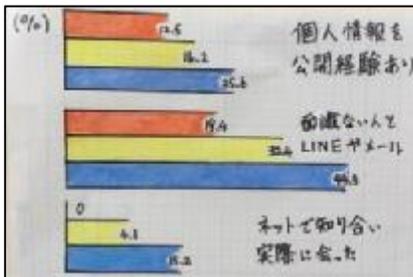
3月：校区小学校（摂津市立千里丘小学校）の6年生約60名を対象にスマホ・ネット利用調査の報告を行い、啓発活動の実施を予定。

3. アピールポイント

生徒会では3年前から生徒のスマホ・ネット利用の現状を調査するアンケートを、自分たちで考え実施。昨年度は校区小学校へもその範囲を広げた。それを集計、分析結果について話し合い、問題点や安全な利用の発信方法を自主的に考える。その中には、口頭発表だけでなく数値のグラフ化や、体験談をもとにした動画を制作し伝えるといった発案もあり、より相手へ伝わる効果的な工夫も生み出された。動画は以下5点の内容を制作。

- ① ながらスマホによるマナー違反（歩きながらのゲーム、自転車に乗りながらの操作）
- ② SNSでのグループ内での悪口の書き込み、グループ外し
- ③ 眠前のスマホ長時間利用への警告
- ④ みんなが集まってのスマホゲームと持っていない子の仲間はずれの気持ち
- ⑤ 個人の無断撮影とSNSへの画像アップについて

小学校3クラスに対し、生徒会の生徒が2人組×3グループとなり各クラスに入り込みの授業形式とすることで、体育館などで学年全体へ話をするより児童が少人数となり、相互のコミュニケーションを図ることをねらった。実際、発表後のアンケートや感想文では、動画による説明は内容が理解しやすいと好評で、その有効性も確認された。



分析データの数値をグラフにして、見る人にわかりやすくする



睡眠前のスマホ長時間利用を動画で紹介



自転車に乗りながら操縦する危険性を動画で紹介

4. 成果

昨年度からの継続的な取り組み、発表により以下の成果がみられた。

- ・昨年度の教職員事後アンケートで評価をいただき、スマホ・ネット利用についての関心が高まる。その結果、本校の全学年において学年教師が主体的に情報モラル教育を実施。
- ・本校の学校経営方針の柱の一つとして掲げられる。
- ・小学校出前授業の感想文には、利用方法や危険性についての認識が高まったという内容が多数みられた。

5. 課題と今後の取組について

児童生徒への啓発だけでなく、教職員や地域といった“大人”へ小、中学生の現状を伝え、啓発活動を引き続き行う必要がある。例えば教職員であれば、総合的な活動の時間や学年の取り組みとして、メディアリテラシーを高めるための時間を企画してもらえるよう働きかける。地域であれば、保護者を始め家庭でスマホ、ネット利用について話し合う機会を持ってもらえるよう取り組んでいきたい。

これらの活動を通して、児童生徒も教職員、地域の“大人”も全ての人々がスマホ・ネット利用について話し合える社会を目指す。

「適切なネット利用対策」実践事例

団体名	大阪市立堀江中学校 生徒会執行部		
タイトル	校区小学校への出前授業 「SNS が将来に与える影響」		
担当者	岸本 充司	連絡先	06-6531-7868

1. 取組の趣旨・目的

ネットトラブルを少しでも減らそうと、入学する校区の小学6年生児童を対象に昨年度から出前授業を実施してきた。本年度はその取組の継続である。昨年度と同じように校区小学校で事前にアンケートを実施し、情報機器の所持率等を把握した上で、自分たちが情報モラル教室やスマホサミットで学んだ知識を児童に伝える授業を実施した。

また、昨年度は「LINEで身近に起こりうる問題」を中心としたテーマにしたが、本年度は「SNSが自分の将来に与える影響」を題材にして、正しい使い方を知り、情報機器の危険性についての意識を高めることをねらいとする授業を実施した。

2. 取組内容

本校では、昨年度から4月の土曜授業で外部講師を招いて情報モラル教室を実施している。本年度も、目まぐるしく変化する情報機器の危険性について、在校生向けの啓発として実施した。全校生徒対象に事前に実施した情報機器に関するアンケート結果の分析で、学年が小さいほど情報機器の危険性についての意識が低いことがわかり、本年度も小学校への出前授業を実施することを決定し、実施に向けて計画を立てた。

4月の情報モラル教室で学んだ内容の振り返りとして、文化発表会で寸劇を実施し、校内に向けて情報機器の危険性の意識啓発を行った。その寸劇の動画を使用して校区小学校での出前授業を行い、中学校入学前の児童に対しての意識啓発を行うこととした。

- 4月 土曜授業で全校生徒に生徒会の情報モラルに関する取組を紹介
全校生徒を対象に情報機器に関するアンケートを実施
外部講師を招いての情報モラル教室を実施
- 7月 校区小学校で6年生児童を対象にしたアンケートを実施
- 8月 生徒会メンバーでアンケート結果を分析⇒問題点や啓発方法について議論
- 10月 文化発表会で情報モラルに関する寸劇を実施
劇の動画をもとに日吉小学校と堀江小学校で出前授業を実施



3. アピールポイント

本取組は、昨年度と同様の形式で継続的な取組であるが、授業のテーマを「LINE で身近に起こりうる問題」から「SNS が将来に与える影響」に変更して実施した。それは、4月に実施した情報モラル教室で SNS での不用意な書き込みや投稿が将来の就職や結婚にも影響するということを受けたものである。また、校区小学校だけでなく校内に向けての啓発も行えるよう、すべての取組につながりを持たせることを工夫して実施した。

- ① 校内に向けて 10 月の文化発表会で 4 月の情報モラル教室の内容を振り返る寸劇を実施した。4 月から半年経過した 10 月に実施することでインパクトのあった 4 月の情報モラル教室で学んだ意識の再啓発を行った。また、寸劇も au の CM をモデルにパロディ化することで、全校生徒が内容に興味を持つよう工夫した。4 月の内容を振り返るような寸劇を実施し、校内での意識の再啓発を行った。
- ② 寸劇の動画をもとに、どういうところに SNS の危険性があるのかが分かりやすいように工夫をした。また、「自分の不用意な書き込みや投稿が周りに迷惑をかけるからやめよう」という道徳的な側面だけでなく、「書き込みや投稿は絶対に消せないもので将来の自分の就職や結婚にも影響を与える」という児童自身に及ぶ危険性があることを強調して伝えることで、SNS 使用に対する意識の啓発を行った。
- ③ これらの授業を教員が行うわけではなく、小学生にとってより身近な中学生が行うことで問題を身近に感じ、意識してもらう工夫を行った。本年度に関しては、校区 2 小学校の希望日時が重複したため、6 人いる生徒会を 3 人ずつの 2 チームに分けて、同時刻に同授業を展開した。そのため、練習段階でお互いのチームの授業を受けあい、改善を行うことができた。

4. 成果

授業後に実施した児童の感想では、「SNS の書き込みが消せないということを初めて知りました」「劇がおもしろくてわかりやすかった」「就職にまで影響を与える SNS を慎重に使っていこうと思う」という感想があったことから、SNS が将来に与える影響を知ってその使用に対する意識啓発を行うという目的は達成できたと考える。本取組を継続していくことで、入学前に授業を受けた児童に、入学後に再び情報モラル教室で意識啓発を行うことができ、より一層の SNS の危険性に対する意識を高めることができると考える。

5. 課題と今後の取組について

我々を取り巻く情報機器の環境は年々変化しており、そこで起こる問題も多様化しているため、同じ取組を継続していくにしても常に新しい情報を収集し、それに対応する知識を学び続けていく必要がある。さらに、今回の授業の感想には「スマホを持っていないので実感がわからない」という意見があり、SNS を使いこなしている児童とそうでない児童の差が大きく、授業の構成も課題となった。また、「動画がわかりづらい」という意見もあり、授業の場で寸劇を実施するなど工夫が必要であることがわかった。

校内に向けての取組も学年ごとに内容を工夫することで、より段階的で継続的な情報モラルに関する意識啓発を行うことができると考える。

団体名	高石市立 高石中学校 生徒会		
タイトル	ダラダラやり取りこれで終了！ みんなで考えよう「高中スマホルール」		
担当者	木村竜作・坂本修仁	連絡先	072-263-6202

1. 取組の趣旨・目的

スマホやネット使用によるトラブルは、本校でも後を絶ちません。昨年度は、全校生徒で考えた「日めくりスマホ川柳カレンダー」を作成し、現在も掲載しています。まずは、スマホサミットに参加し、他校や異校種間での取組内容を共有し、交流しました。そして、スマホやネットトラブルに関して、単年度で終わらせず、継続的に取り組むこととしました。

今年は、「SNSのやり取り」と「生活への影響」に着目し、生徒会メンバーを中心として取り組みました。SNSのやりとりの中で友人間でのルールが「あるか」「ないか」。そのやりとりが、生活習慣に悪影響を及ぼしていないか。その結果をふまえて、高石中学校でのルール「高中ルール」を設定し、本校在籍生徒だけではなく、保護者や市内小中学校へも広めます。

また、生徒会執行部の中心メンバーが、交流や議論を進めて行く中で、自分の意見を伝える力や人前で発表できるなど、リーダーとしての力の育成にもつなげていきたい。

2. 取組内容

5月：生徒会メンバーで、ネットやスマホへの問題に引き続き取り組むことが決まる。

「OSAKA スマホサミット」への参加決定

6月：スマホサミット第1回ワークショップに参加

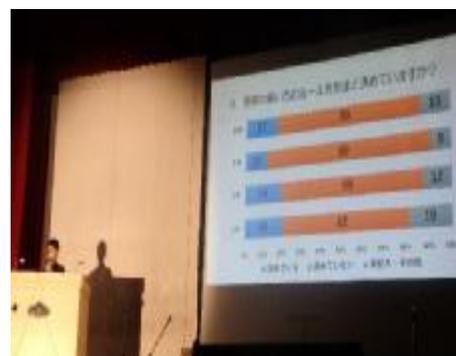
8月：生徒会メンバーで、高中スマホアンケートの考案

9月：高中スマホアンケートの実施、集計。

10月：高中スマホアンケート、大阪スマホアンケート両方を考察。文化活動発表会にて、全校生徒、保護者に対してアンケート結果からわかる高石中学校の実態を発表。

11月：スマホサミットワークショップへの参加。

12月：高石市「わたしたちの生活を話し合う会」に参加。高石市内の全小学校児童会、全中学校の生徒会メンバーにスマホアンケートによる実態を発表（予定）



写真は文化活動発表会で生徒会メンバーが、スマホアンケートの結果について発表している様子

3. アピールポイント

「大阪スマホアンケート」に加えて、高石中学独自の「高中スマホアンケート」も全校生徒を対象に実施しました。その中から、生徒が困っている「ながらスマホ」「だらだらやりとり」が影響して、生活習慣の乱れにつながっていることがわかりました。また、やりとりを終了する方法がうまく伝えられず、困っているとの意見も多くあることが判明しました。どうしたら、相手も自分も嫌な思いをせずにやりとりを終了することができるのかを生徒会メンバーを中心に考えた結果、「合言葉」を作ることとなりました。

高中ルールとして、「合言葉」がメッセージに入れば、やりとりを終了しようと言うものです。「合言葉」作成についても、趣旨を説明し、全校生徒にアンケート形式で意見を募集した結果、「おつ(乙)」…(お疲れさまの意)、「バイ」…(バイバイの略)などの有力候補もたくさん集まりましたが、語呂あわせと発音しやすいことから、「じゃイ」となりました。(じゃあ、バイバイ)の略です。

この結果を文化活動発表会で保護者にも伝えました。高中スマホアンケートから見える、本校の実態を理解してもらい、保護者の中でもやりとりで「じゃイ」を使ってもらおうよう普及させました。

本校では、生徒会メンバーが中心となるものの、全校生徒のアンケートや全校生徒の意見募集など、一部の生徒だけが頑張るのではなく、「常にみんなで考える」ということを核にして取組をおこないました。

また、「じゃイ」については、「高中から高石市へ」をキーワードにしています。市内の小中学校へも、12月に開催される「わたしたちの生活を話し合う会」(市内小中学校の生徒会児童会がすべて集まります)を通じて普及させていきます。

4. 成果

今年度の取組の成果として、「大阪スマホアンケート」と「高中スマホアンケート」のデータを融合したことで、高中生のスマホと生活の実態が細かに把握できました。

また、その結果から「高中ルール」としてメッセージ終了合言葉、「じゃイ」をみんなで考えたことで、今では「じゃイ」は、スマホを持っていない生徒にも普及しました。スマホのやり取りだけでなく、下校時やクラブの帰りなどでも、今では「じゃイ」が「さようなら」の挨拶のかわりになっています。結果、日常的に違和感なく使われるまでに広まりました。

5. 課題と今後の取組について

昨年度に引き続き、スマホへの取組を実施してきましたが、日々変化していくスマホ事情の中で、今後も「継続していくこと」が大切だと考えています。カレンダーや合言葉など、スマホ問題を身近なものとしてとらえ、「日々の生活で振り返れるようなもの」「使えるようなもの」を次年度以降も考えていきます。

「適切なネット利用対策」実践事例

団体名	大阪府立野崎高等学校		
タイトル	スマホマナー啓発ムービー		
担当者	宮崎 元	連絡先	072-874-0911

1. 取組の趣旨・目的

本校で行っている携帯アンケートにおいてほとんどの生徒がスマートフォンを使用しており、一日の使用時間も長く、スマホへの依存傾向があることがわかっている。また人間関係作りが苦手で、ささいなコミュニケーション上のトラブルがきっかけとなって、学校へ登校しづらくなる生徒もいる。今回生徒会執行部が自分たちで身近なトラブルについて考え、全校生徒に発信していくことで、生徒目線に立ったスマホ安全利用の啓発に資する。

また、生徒会執行部での話し合い、全校生徒の前での発表を通して、生徒のコミュニケーション力を高め、生徒の代表としての自覚を持たせる。

2. 取組内容

5月：1年生対象にスマホ利用についてのアンケート

6月：各クラスでアンケート結果の返しとスマホの安全利用を啓発するHR学習

：第一回スマホサミットワークショップに参加し、生徒会執行部がスマホ利用の課題を学習

7月：終業式の全校集会の場で、生徒会執行部でスマホサミット参加の報告とアンケート協力の依頼を全校生徒に対して行う

：1年生が授業「社会と情報」でスマホの安全な利用を啓発するポスターを作製、授業内で発表、優秀作品を学校玄関前に展示

9月：第二回スマホサミットワークショップに参加

10月：生徒会執行部で身近なスマホトラブルについて考え、啓発動画を作成

11月：文化祭閉会式終了後に全校生徒の前で、動画を上映し、スマホの安全な利用に関する啓発を行う



3. アピールポイント

- ・ 教員や外部講師からの指導、啓発ではなく、生徒達自身が感じている問題点を話し合うことを重視した。また中心となって取り組んだ生徒会執行部は学校の代表として全校生徒に認められており、動画や啓発に関するメッセージも受け入れやすい。
- ・ 動画作成にあたっては、生徒の日常に近づけるよう工夫し、多くの生徒に共感を与えることができるよう留意した。



4. 成果

- ・ 生徒会執行部が主体的に動画作成に取り組み、発表することでリーダーとしての自覚が生まれた。
- ・ 全校生徒が集中して動画を視聴したことがきっかけとなり、スマホ利用に関して生徒間で話題にしている。
- ・ スマホ利用に関して生徒が中心となり考えていく校内での土台作りができた。

5. 課題と今後の取組について

スマホやネットは、生徒の生活に密接に関わっているので、このような取組は継続して実施していく必要がある。各生徒はスマホに関するトラブルについて、理解はしていても実際自分自身に起こりうる問題としてとらえきれていない生徒もいるので、今後も安全安心な利用の啓発を続けていく必要がある。

新しいアプリや機能などの登場で、スマホを取り巻く環境は急速に変わり続けている。教員や保護者も最新の知識を得ながら、生徒とともに考え続けていかなければいけない。